

広報たかなべ

2014. 5. 16 NO. 388

- ・特集 食べることは生きること
- ・図書館へ行こう！
- ・平成26年度 一般会計予算
- ・高鍋町体育館が新装開館しました
- ・平成26年度 高鍋町消防団幹部・部長のみなさん
- ・防災行政無線が拡充配備されました
- ・平成26年度 高鍋町行政事務連絡員を紹介します
- ・乗って残そう！公共交通！
- ・高鍋町景観条例を制定しました
- ・まちの話題
- ・わが町の宝物



学校、楽しいよ！

高鍋町では今年、166人の児童が期待を胸に小学校へ入学しました。高鍋西小学校の1年生のクラスにお邪魔すると、すっかり学校にも慣れ、元気いっぱいに授業に取り組む子どもたちの姿が見られました。お友達をたくさんつくる、楽しく勉強に運動に励んでくださいね。



町立わかば保育園 青組の子どもたち

~特集~

食べることは生きること

私たちを取り巻く「食」の環境は、時代とともに大きく変化しています。かつて食べ物が貴重だったころは、地域の風土を活かしたことにより、知らないうちに食の大切さを学んでいました。しかし、「飽食の時代」と言われるようになつた今日はどうでしょうか。いつでも身近に食べ物

時代とともに 変化した食生活

食事は、私たちが生活する中で、健康な体を保つために必要な栄養を補給するための中であることはもちろんですが、心の健康にも大きく作用していきます。例えば、食卓を囲んで楽しく話をしたり、おいしいものを食べて疲れを癒すことによって、ストレスの解消や心の安定を得ることができます。

忙しい毎日を元気に過ごすためには、食べること、つまり食事は欠かすことができません。

「いただきます」という言葉には「食事をいただきます」という意味も含まれています。四年前、口蹄疫によつて多くの家畜が殺処分されたとき、「命をいただく」ことの意味を深く考えさせられました。高鍋町では『住民参画による快適で美しいまち「たかなべ」』子どもがにぎわうまちづくり』（第五次高鍋町総合計画）を実現するため、すべての町民が生涯にわたつて、生き生きと暮らすための取り組みが進められています。その生活の基礎となる「食」の大切さを伝えるために、今年四月「第二期高鍋町教育推進計画」が策定されました。その計画の中で、教育推進の基本理念である「笑顔でいただきます！」には、食事を準備してくれた人に「ありがとう」との気持ちを、そして命の恵みに感謝する気持ちを伝えようというメッセージが込められています。

皆さんは食事の前に「いただきます」を言っていますか？

「いただきます」という言葉には、食事の前にするあいさつ以外に、たくさんの意味が込められています。

「いただきます」という言葉の意味を一緒に考えてみませんか。

食べることの意味

この春、入学や就職、そして引っ越しなどで身の回りの環境が大きく変わつた中、新生活をスタートした方も多いのではないかでしょうか。

が溢れ、食べることに不自由のない時代となりました。食卓からは季節感が薄らぎ、家族団らんの会話も減り、「食」について学ぶ機会が減つてしまつたのではないかでしょうか。

「いただきます」を伝えよう

「いただきます」という言葉には「命をいただく」という意味も含まれています。「命をいただく」ことの意味を深く考えさせられました。

高鍋町では『住民参画による快適で美しいまち「たかなべ」』子どもがにぎわうまちづくり』（第五次高鍋町総合計画）を実現するため、すべての町民が生涯にわたつて、生き生きと暮らすための取り組みが進められています。その生活の基礎となる「食」の大切さを伝えるために、今年四月「第二期高鍋町教育推進計画」が策定されました。その計画の中で、教育推進の基本理念である「笑顔でいただきます！」には、食事を準備してくれた人に「ありがとう」との気持ちを、そして命の恵みに感謝する気持ちを、そして命の恵みに感謝する気持ちを伝えようというメッセージが込められています。

「おいしい」の笑顔は最高のプレゼント



顔の見える食事で
心を豊かにしてください

JA児湯女性部長
大福 裕子さん

近年、たくさんの女性が社会に出て働く時代となり、食事に対する意識も変わってきました。スーパーに行けばたくさんの惣菜が並び、簡単に食卓に並べることができます。しかし、料理は作る人の顔が見えるとおいしく感じるものです。サラダや鍋料理に使う葉物の野菜は、包丁を使わず、手でちぎって入れても、大きさが違つておもしろいし、味わい深くなりますよね。「こんなに大きな野菜が入っている！」と家族で笑いにつながることもあるのではないでしょうか。料理は型にはめるものではなく、気軽に楽しくするものです。上手に手抜きして、顔の見える料理を食卓に並べて、心を豊かにする食事をして欲しいと思います。

私たち生産者は、「おいしい」という言葉を聞くととてもうれしく、元気になります。高鍋町のおいしい農産物や食材をたくさん食べて、一緒に元気になりましょう。

う。心必たてずめ感謝の気持ちを込めて言います「いまだに食事の前であります」とはるる命をいきたいと思います。生産者の命を作っています。皆さんに感謝してください。生産者に感謝して、命をいかないといけません。

【取材を終えて】

が感謝の気持ちが薄れています。命をいかないといけません。生産者には、私たちが命を作っています。皆さんに感謝してください。命をいかないといけません。



「おいしい」という言葉から
元気をもらいました

養豚業農家
岐本 壮平さん

4年前に口蹄疫の影響で飼育していた豚を全頭殺処分したときは、まったく先が見えず、一念発起して養豚業を再開したものの、不安と隣り合わせの毎日でした。

昨年末、町の産業振興課から、子どもたちの料理教室に飼育している豚を食材として提供し、また料理教室にも参加してもらえないかと相談されました。引き受けたものの、調理をしている間ずっと、子どもたちが自分が飼育した豚を「おいしい」と言ってくれるのか不安でした。しかし、みんなが笑顔で「おいしい！」と言って食べている姿を見て、ほっとしたと同時に、口蹄疫以降、沈んでいた気持ちが元気になるのを感じました。

これからも、安心、安全な飼育を心がけ、たくさんの人たちに「おいしい」と喜んでもらえる豚肉を作っていくたいと思います。



キャベツ農家&
野菜ソムリエの資格を持つ
永友 飛鳥さん

キャベツを使った簡単レシピを紹介します

今の時季、「高鍋を食べる」と言ったらやっぱりキャベツ！高鍋町のキャベツは、九州でもトップクラスの生産高を誇ります。キャベツの歴史は大変古く、ギリシャ時代には薬として用いられ、ローマ時代には健康維持食として食べられていました。

たくさんの方々がキャベツを詰まつたおいしいキャベツ。そんなキャベツを使った簡単レシピを紹介します。



キャベツの甘酢いため

【材料(4人分)】

- ・キャベツ 適量
- ・塩コショウ 少々
- ・にんにく 1かけ
- ・オイル 少々
- ・唐辛子 1本
- ・酢:しょうゆ:さとう 1:1:1

キャベツのチャウダー

【材料(4人分)】

- ・キャベツ 1/4玉
- ・水 100cc
- ・ベーコン 80g
- ・牛乳 200cc
- ・玉ねぎ 1個
- ・塩コショウ 適量
- ・小麦粉 大1
- ・バター 20g

【作り方】

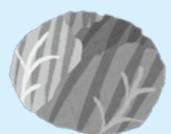
1. キャベツは食べやすい大きさに切る。
2. 酢・しょうゆ・さとうを合わせておく。唐辛子は種をとり、半分に切つておく。
3. フライパンにオイル・にんにくを入れ、にんにくが香ってきたら取り出して、キャベツを入れて炒める。
4. キャベツに塩コショウを一振りし、2の調味料を入れ、さつと炒め、唐辛子を加えて皿にとる。



キャベツのチャウダー

【作り方】

1. キャベツは食べやすい大きさにざく切りにし、ベーコンは1cm幅くらいに切る。
2. 玉ねぎは薄切りにする。
3. キャベツとベーコンをバター10gで炒める。
4. 鍋に残りのバターを入れ、玉ねぎを炒め、しんなりしてきたら小麦粉を入れて軽く炒める。
5. 4に水と牛乳を入れ、小麦粉が良く混ざり合ったら、3を入れて煮る。
6. 仕上げに塩コショウで味を調える。



若年層に広がる 活字離れの現状

・・本と出会える場所・・・

図書館へ 行こう!

情報化の発達に伴い、本などの活字に触れる機会
が少なくなったと言われています。

高鍋町では、本の魅力を一人でも多くの人に知つ
てもらうために、さまざまな取り組みを行っています。



町立高鍋図書館

近年、インターネットや携帯電話などが普及し、いつでも、どこでも気軽に映像を楽しんだり、情報を得ることができるようになりました。このような環境の変化が、特に子どもから若年層にかけての活字離れに、大きく影響していると言われています。

全国学校図書館協議会が毎年行う「読書調査」の昨年の結果では、一ヶ月間、まったく本を読まなかつた子どもの割合は、小学生が5・3%、中学生が16・9%、

高校生が45・0%となつており、年齢が上がるにつれ、本を読まない傾向が進んでいることが分かります。

図書館を利用しよう

町立高鍋図書館は、初代町長である柿原政一郎氏の尽力により昭和三十年に開館しました。その後、昭和五十三年に新築し、現在に至ります。

高鍋図書館には、図書が約六万冊、古書・古記録（明倫堂文庫）が約二万冊所蔵され、町民のものとも身近な社会教育施設として活

用されています。

また、高鍋図書館が所蔵してい

ない本は、県内の公立図書館から取り寄せ、貸し出しすることができます。このシステムを利用するど、本を探しに遠くまで足を運ぶ必要がなく大変便利です。

高鍋図書館では、子どもたちに本の楽しさを伝えるために、本の読み聞かせ会や小学校高学年以上を対象にした朗読会なども行われています。

忙しくて本を読む時間がない方も、時には図書館に出かけ、ゆっくり本の世界に浸つてみるのもよいのではありませんか。

私たち図書館の職員は、カウンターでの貸し出しなどを行うだけでなく、利用者の皆さんからは見えないところで、さまざまな業務を行っています。

皆さんのが、読みたい種類の本やしてある本がすぐに分かるように本棚を整理したり、どんな本に興味や関心があるか、利用状況を分析して新刊をそろえたりするなど、館内で気持ちよく過ごしてもらえるための環境づくりを行っています。

また、利用者の皆さんに自分の好きな分野の本だけでなく、さまざまに興味を持つてもうための「特設コーナー」を設けたり、季節に合わせた本や私たちが皆さんに読んで欲しい本をそろえた「こだわりコーナー」なども設置して、図書館に来て喜んでもらえるような取り組みも行っています。

そのほか、図書館が憩いの場所となるように、毎週水曜日の午後には、お茶のサービスも行っています。

お茶を飲みながら、ゆっくり本を楽しむことができる



高鍋図書館 司書
永井 千香子さん

The Interview



本に関する相談やおすすめの本など、どうぞお気軽に尋ねください。

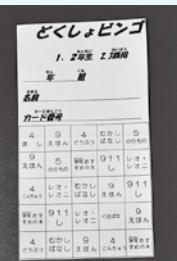
子どもたちに本の素晴らしさを伝えるために 魅力ある「学校図書館」づくりを行っています

今年三月、第五十九回全九州学校図書館コンクールで高鍋東・西小学校が同時に優秀賞を受賞しました。これは、県内で三校の受賞のうち二校が高鍋町という素晴らしいものです。両校で連携を取りながら、魅力ある学校図書館づくりに励んだ結果、児童が積極的に図書館へ足を運ぶようになり、児童一人当たりの貸出冊数は、二年前と比較すると倍増しました。ここでは、子どもたちが楽しく本とふれあえる「学校図書館」を紹介します。

高鍋東小学校



うれしそうに本を借りる子どもたち

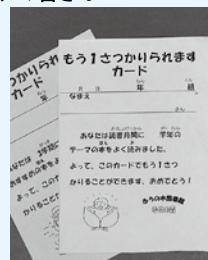


さまざまな分野の本にふれる機会を作る「読書bingo」カード

高鍋西小学校



図書館の装飾などを手伝う図書ボランティアの皆さん



子どもたちの本を読む意欲を向上させるカード



子どもたちが喜ぶ図書館をつくりたい

子どもたちが、毎日楽しく足を運んでくれるような明るい図書館づくりを行うだけではなく、子どもたちが調べたいこと、知りたいことの資料をそろえるために、蔵書の分野を広げることにも積極的に取り組んでいます。

子どもたちが喜ぶ図書館をつくりたい

子どもたちが、毎日楽しく足を運んでくれるような明るい図書館づくりを行うだけではなく、子どもたちが調べたいこと、知りたいことの資料をそろえるために、蔵書の分野を広げることにも積極的に取り組んでいます。

子どもたちが喜ぶ図書館をつくりたい

子どもたちが、毎日楽しく足を運んでくれるような明るい図書館づくりを行うだけではなく、子どもたちが調べたいこと、知りたいことの資料をそろえるために、蔵書の分野を広げることにも積極的に取り組んでいます。



高鍋東小学校 司書
副島 玲子さん

子どもたちが喜ぶ図書館をつくりたい

子どもたちが、毎日楽しく足を運んでくれるような明るい図書館づくりを行うだけではなく、子どもたちが調べたいこと、知りたいことの資料をそろえるために、蔵書の分野を広げることにも積極的に取り組んでいます。



高鍋西小学校 司書
永田 美智代さん

【取材を終えて】

【取材を終えて】

情報化社会と言われる現代。日常生活の中でも、さまざまな情報の収集や通信・伝達などに時間を費やすことが増えています。

しかし、インターネットや携帯電話などにはない魅力が、本にはあります。それは、活字を読み込む想像力や思考力が働くうえ、感性や表現力なども育てくれるところではないでしょうか。

「知の宝庫」と言われる図書館。すてきな本と出会うために、ぜひ図書館を利用してください。

The Interview



学校支援地域本部
地域コーディネーター
小夏 美由紀さん

町内で長年、本の読み聞かせボランティアなどを通じて、学校図書館づくりに尽力する小夏さんに話を聞きました